

第1章 日高市の概況と将来見通し

第1章 日高市の概況と将来見通し

1. 日高市の概要

日高市は、埼玉県南西部に位置し、東京都心から約40km圏内で、市域は東西方向11.1km、南北方向6km、面積は47.48km²で、約70%が平野で占められている。

地勢は、秩父山地の外縁部に当たり、市西部の山地と高麗丘陵、東部の台地に分かれ、市内には一級河川高麗川、宿谷川、小畔川などが流れている。気候は太平洋式気候の内陸的傾向を示し、一般に四季を通じて穏やかであり、田畑を拓き産業を興してきた。

昭和30年には、高麗村と高麗川村の両村が合併し日高町が誕生した。翌31年には高萩村を日高町が編入し、現在の日高市の市域が形成された。

その後、首都圏のベッドタウンとして昭和40年代から50年代にかけて住宅都市整備公団、民間企業を中心とした大規模住宅開発が行われ、急激な人口の増加とそれに伴う都市基盤整備及び公共施設の整備を行ってきた。

平成2年の国勢調査人口は、53,169人となり、平成3年には、市制が施行され、平成26年で日高市が誕生してから23年となる。

(1) 面積・人口・世帯

面積は47.48km²（平成26年1月1日現在）であり、平成22年現在で面積の広い順に順位付けすると、全国1,308位、埼玉県内25位となっている。なお、可住地面積は平成22年現在34.66km²であり、面積の広い順に順位付けすると、全国1,024位、埼玉県内25位となっている。

人口は57,505人（平成26年1月1日現在）であり、平成22年（2010年）国勢調査時の人口は57,473人である。これを人口が多い順に順位付けすると、全国の市区町村の中で490位、埼玉県内の市町村の中では37位となっている。

人口密度は、1,211.1人/km²（平成26年1月1日現在）であり、平成22年現在（1,210.5人/km²）で密度が高い順に順位付けすると、全国318位、埼玉県内39位となっている。

世帯数は、23,011世帯（平成26年1月1日現在）であり、これを平成22年現在（21,227世帯）で世帯数が多い順に順位付けすると、全国485位、埼玉県内37位となっている。

世帯当たりの人員は、2.5人/世帯（平成26年1月1日現在）であり、これを平成22年現在（2.7世帯）で多い順に順位付けすると、全国840位、埼玉県内31位となっている。

※比較については、全国の自治体数1,742団体、埼玉県内の自治体数63団体を対象とした。（平成24年3月31日現在）

図表1-1 面積・人口・世帯（平成26年1月1日現在）

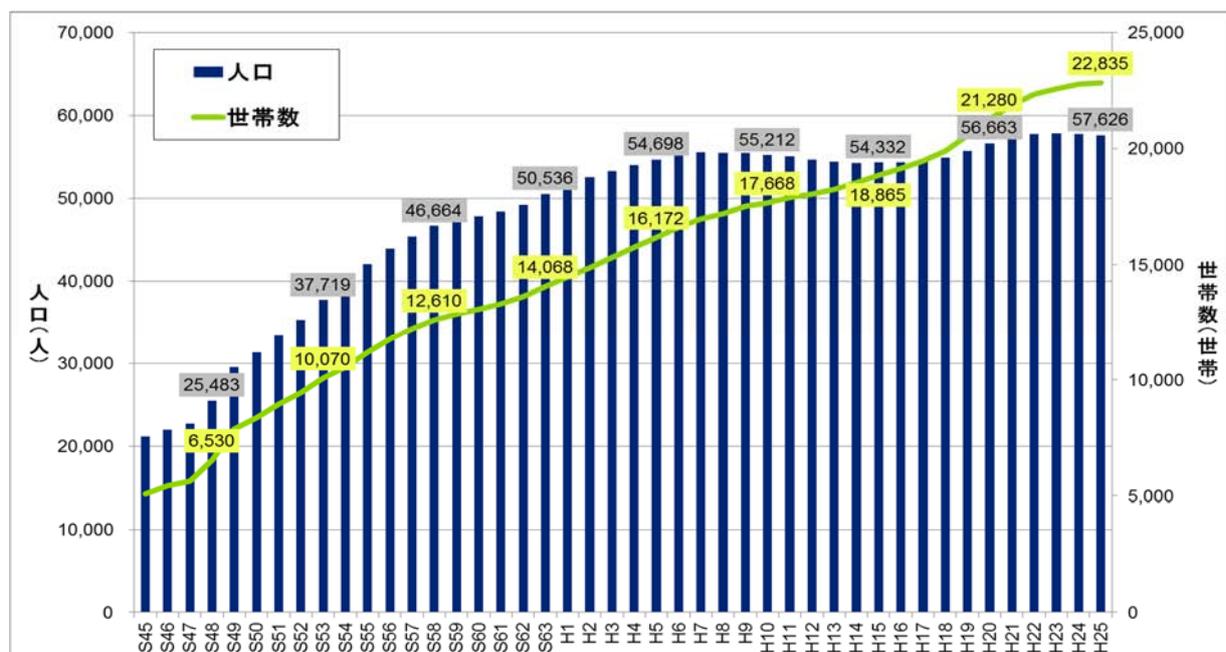
面積	47.48 km ²
人口	57,505 人（人口密度：1,211.1 人/km ² ）
世帯数	23,011 世帯（世帯当たりの人員：2.5 人/世帯）

日高市の人口及び世帯数(住民基本台帳及び外国人登録台帳の各年4月1日現在)は、昭和45年以降一貫して増加を続けてきた。しかし、人口については平成23年の57,865人を境に減少している。なお、世帯数については依然として増加傾向にある。

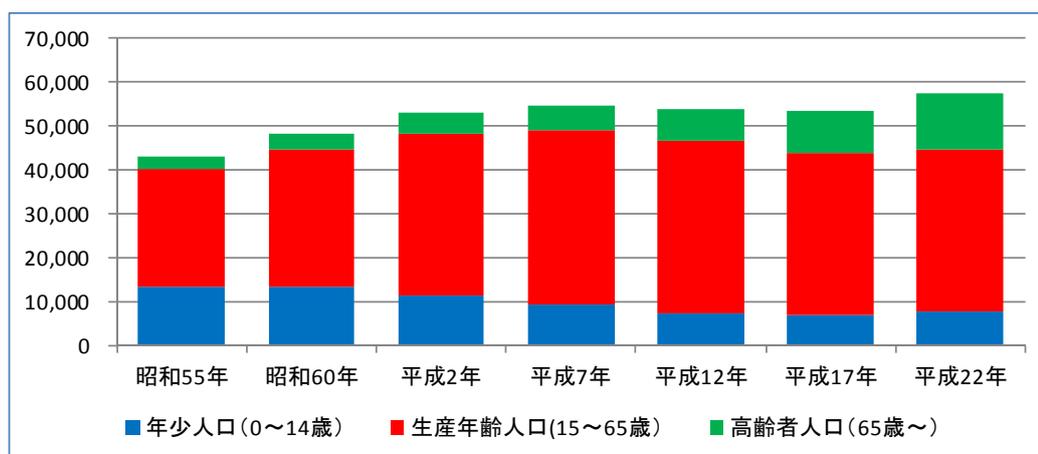
これらについては、少子高齢化や核家族化の進展によるものであると考えられる。

さらに、日高市の国勢調査人口(3階層別年齢人口)の推移は、次のとおりとなっており、学校を中心とした公共施設の整備の時期(昭和55年)と平成22年を比較すると人口構造がかなり異なっている。

図表1-2 人口・世帯の推移(昭和45年から平成25年まで)



図表1-3 日高市の国勢調査人口(3階層別年齢人口)の推移



	昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		平成17年		平成22年	
	人口	割合												
年少人口(0~14歳)	13,484	31%	13,217	27%	11,250	21%	9,237	17%	7,514	14%	6,881	13%	7,687	14%
生産年齢人口(15~65歳)	26,970	62%	31,372	65%	37,085	70%	39,778	72%	38,965	73%	37,160	69%	36,890	64%
高齢者人口(65歳~)	2,758	6%	3,636	8%	4,773	9%	5,869	11%	7,226	13%	9,471	18%	12,823	22%
合計	43,212	100%	48,225	100%	53,108	100%	54,884	100%	53,705	100%	53,512	100%	57,400	100%

(2) 財政とその推移

日高市の財政は、平成 24 年度普通会計の歳出決算額が約 160 億円であり、その他の財政指標は次のとおりである。

図表 1-4 平成 24 年度普通会計の状況

財政力指数	0.854
経常収支比率	89.6%
実質公債費比率	5.5%
将来負担比率	0.5%

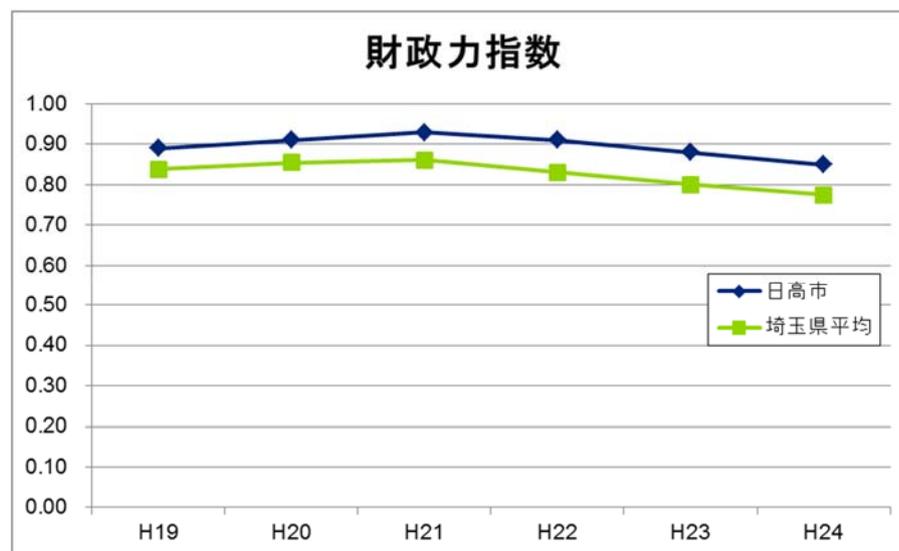
①財政力指数

財政力指数とは、地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去 3 年間の平均値である。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。

日高市は、0.854(平成 24 年度)であり、指標が高い順に順位付けすると、全国で 212 位/1,742 団体、埼玉県内で 21 位/63 団体となっている。

近年、高齢化等による扶助費(社会保障費等)の増加により、やや低下傾向にある。

図表 1-5 財政力指数の推移



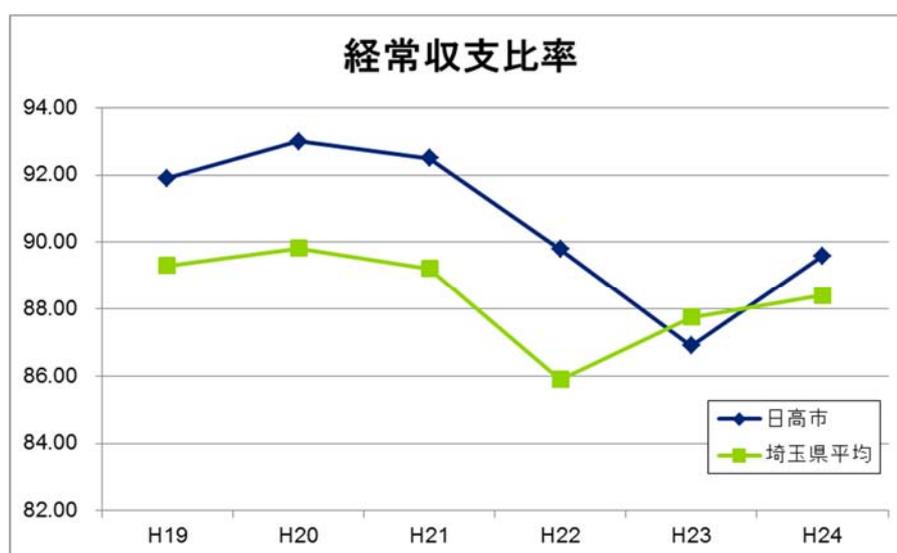
②経常収支比率

経常収支比率とは、地方税、普通交付税のように用途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される一般財源（経常一般財源）のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費（経常的経費）に充当されたものが占める割合である。この指標が高いほど、財政が硬直化しているといえる。

日高市は、89.6%（平成24年度）であり、指標が低いに順位付けすると、全国で1,096位／1,742団体、埼玉県内で38位／63団体となっている。

平成20年度から下降傾向であったが、平成24年度は上昇に転じている。

図表1-6 経常収支比率の推移



(参考)

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{人件費、扶助費、公債費等に充当した一般財源等}}{\text{経常一般財源等（地方税＋普通交付税等）} + \text{減収補填債特例分} + \text{臨時財政対策債}} \times 100$$

③実質公債費比率

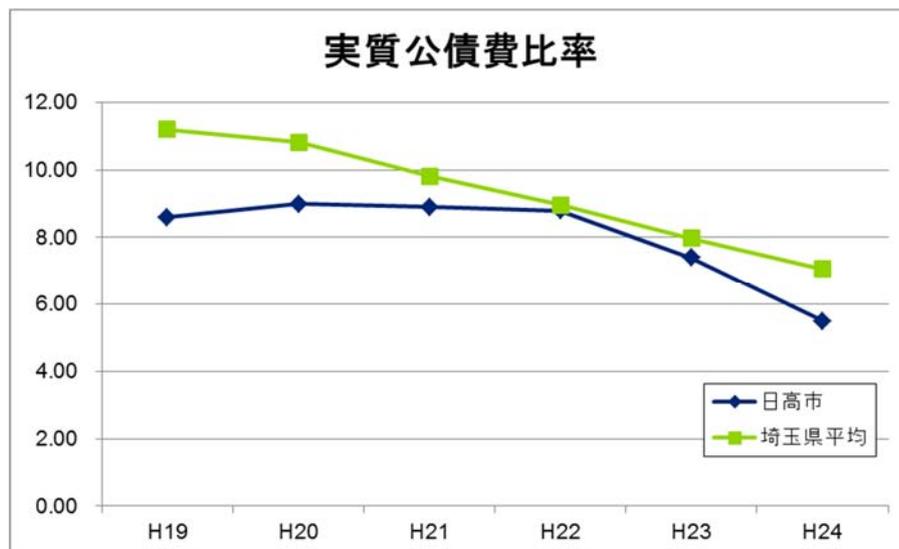
実質公債費比率とは、一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率の過去3年間の平均値で、借入金（地方債）の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を表す指標のことである。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」における早期健全化基準については、市町村・都道府県とも25%とし、財政再生基準については、市町村・都道府県とも35%としている。

日高市は、5.5%（平成24年度）であり、比率が低い順に順位付けすると、全国で239位／1,742団体、埼玉県内で20位／63団体となっている。

実質公債費比率は早期健全化基準や財政再生基準に比べて低く、年々減少傾向にある。

図表1-7 実質公債費比率の推移



(参考)

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(A+B) - (C+D)}{E-D}$$

- A : 地方債の元利償還金
- B : 準元利償還金
- C : 特定財源
- D : 元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額
- E : 標準財政規模

④将来負担比率

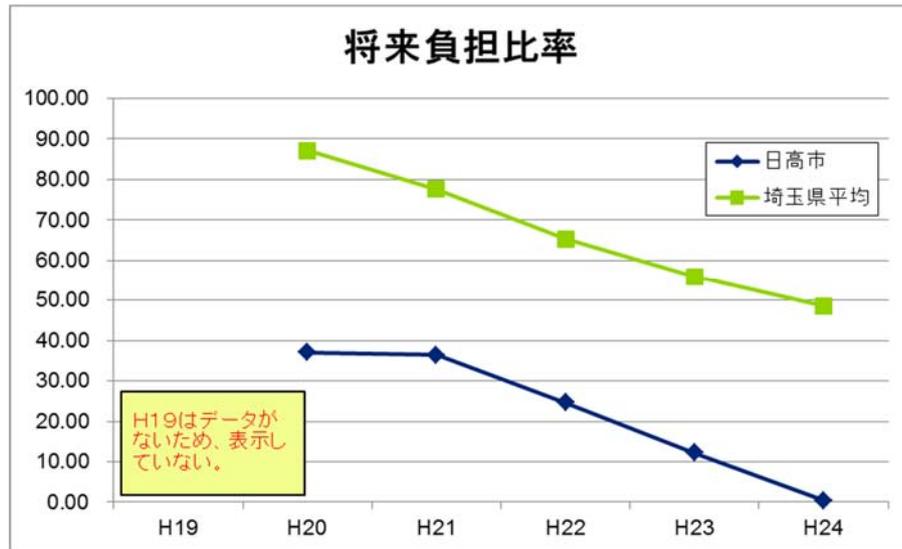
将来負担比率とは、地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係るものも含め、当該地方公共団体の一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率のことであり、地方公共団体の一般会計等の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標である。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」における早期健全化基準については、実質公債費比率の早期健全化基準に相当する将来負担額の水準と平均的な地方債の償還年数を勘案し、市町村（政令指定都市は除く）は350%としている。

日高市は、0.5%（平成24年度）である。

近年は起債額を縮小しているため、将来負担比率が減少し、早期健全化基準の350%と比較しても非常に低く、健全な財政運営が行われている。

図表1-8 将来負担比率の推移



(参考)

$$\text{将来負担比率} = \frac{A - (B + C + D)}{E - F}$$

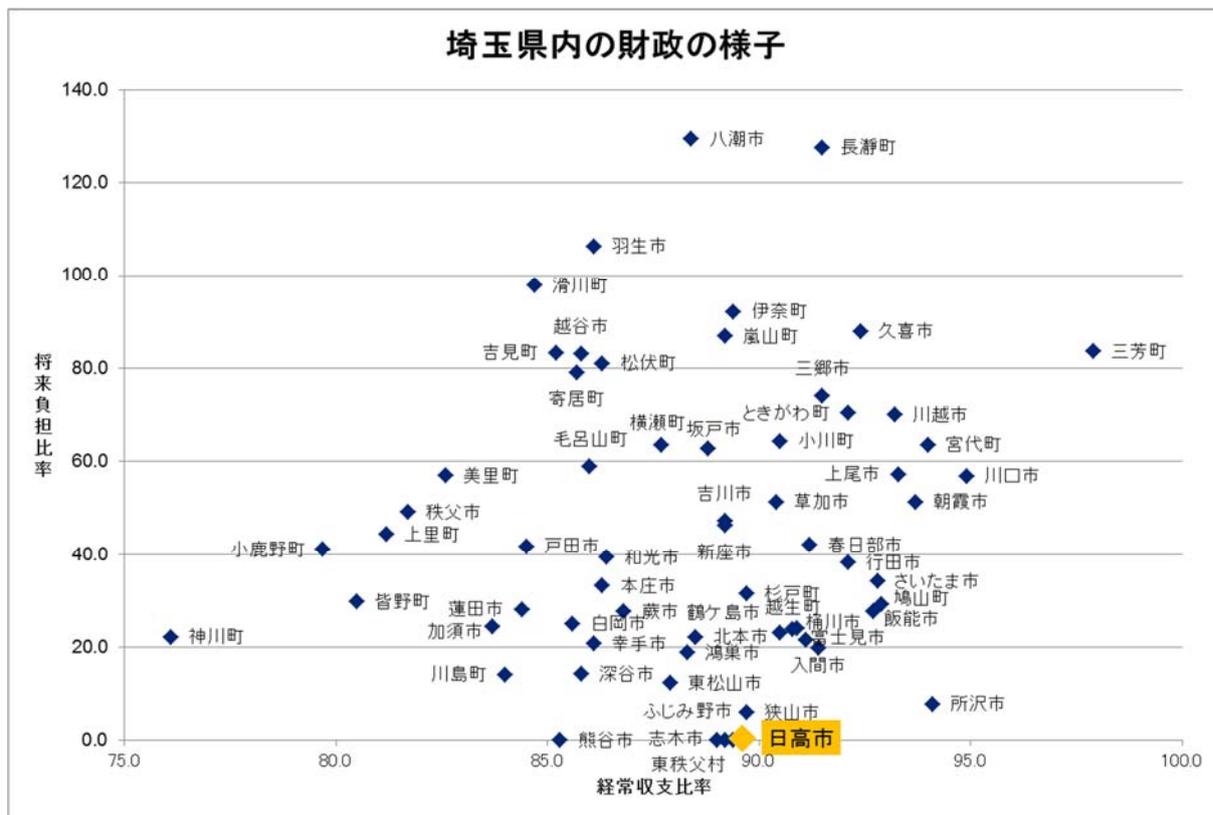
- A : 将来負担額
- B : 充当可能基金額
- C : 特定財源見込額
- D : 地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額
- E : 標準財政規模
- F : 元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額

(3) 埼玉県内における財政ポジション

埼玉県内自治体における日高市の財政ポジションを分析するため、将来負担比率と経常収支比率のクロス分析を実施した。

日高市を他の自治体と比べた場合、将来負担比率が非常に低い数値となっている。このことは、将来世代への負担を極力抑えた財政運営を行っていることを示している。

図表1-9 埼玉県内自治体の将来負担比率及び経常収支比率の状況(H24)



(4) 主な公共施設の状況

主な公共施設について区分ごとに分類すると次のとおりとなる。

図表1-10 日高市が設置・管理している施設(普通会計)

施設区分		具体的な施設
学校教育系施設	小学校	高麗小学校、高麗川小学校、高萩小学校、高根小学校、高萩北小学校、武蔵台小学校
	中学校	高麗中学校、高麗川中学校、高萩中学校、高根中学校、高萩北中学校、武蔵台中学校
	教育センター	教育センター（生涯学習センター内）
	学校給食センター	学校給食センター
市民文化系施設	生涯学習センター	生涯学習センター（図書館）
	公民館	高麗公民館、高麗川公民館、高萩公民館、高麗川南公民館、高萩北公民館、武蔵台公民館
	その他の市民文化系施設	高麗郷民俗資料館、高麗郷古民家「旧新井家住宅」
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	文化体育館「ひだかアリーナ」、市民プール、北平沢運動場
	学校開放施設	夜間照明施設（高麗小学校、高萩北小学校、高麗川中学校）、全小中学校の体育館
子育て支援施設	保育所	高麗保育所、高麗川保育所、高根保育所
	学童保育室	高麗川学童保育室、高根学童保育室（高根小学校敷地内）、武蔵台学童保育室（武蔵台小学校校舎内）、高萩学童保育室（高萩小学校校舎内）、高麗学童保育室、高萩北学童保育室（高萩北小学校校舎内）、高麗川かえで学童保育室（高麗川小学校校舎内）
	その他の子育て支援施設	児童ふれあいセンター、高根児童室（高根小学校校舎内）
公園	総合公園	日高総合公園
行政系施設	市役所本庁舎	日高市役所
	出張所	高萩出張所、高麗出張所（高麗公民館・文化財室と複合）、高根出張所（高麗川南公民館と複合）、武蔵台出張所（武蔵台公民館と複合）
	消防団施設	消防団第一分団、消防団第二分団、消防団第三分団、消防団第四分団、消防団第五分団、消防団第六分団
	その他の行政系施設	文化財室（高麗公民館・高麗出張所と複合）

施設区分		具体的な施設
保健・福祉施設	保健相談センター	保健相談センター（生涯学習センター内）
	高齢者・障がい者施設	総合福祉センター「高麗の郷」（高齢者福祉センター、障がい者福祉センター、デイサービスセンター及び地域包括支援センターの複合施設）
公営住宅	市営住宅	市営住宅（A棟・B棟・C棟）
産業系施設	農村研修センター	高麗農村研修センター、高萩南農村研修センター
供給処理施設	清掃センター	清掃センター
	最終処分場	一般廃棄物最終処分場
その他	その他	武蔵高萩駅自由通路、休憩舎・公衆トイレ、巾着田（管理事務所等）等

図表1-11 上・下水道関連施設

施設区分	具体的な施設
上水道施設	高岡浄水場、栗坪取水場、武蔵台減圧場・配水場、高麗本郷取水場・配水場、北平沢第1・第2取水場・中継ポンプ場、高萩第2・第3取水場・浄水場、高麗川配水場、横手ポンプ場、山根配水場等
下水道・農業集落排水施設	浄化センター、高麗汚水処理施設、大谷沢農業集落排水施設等

図表1-12 他自治体との共同管理施設（一部事務組合）

施設区分	一部事務組合名（構成市）
消防施設	埼玉西部消防組合（所沢市、飯能市、狭山市、入間市及び日高市）
し尿処理施設	入間西部衛生組合（入間市及び日高市）
火葬場及び葬祭場	広域飯能斎場組合（飯能市、狭山市及び日高市）

図表1-13 民間の施設に委託

施設区分	委託施設
ごみ処理施設	太平洋セメント株式会社埼玉工場

※備考 市内には他の自治体（埼玉県等）が設置している施設はない。

(5) 相互利用対象施設

近隣自治体間で施設の相互利用を行っている施設は次のとおりとなる。

図表1-14 近隣自治体間での施設の相互利用

区分	対象市町	相互利用対象施設
埼玉県川越都市圏まちづくり協議会による相互利用	川越市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、川島町、毛呂山町及び越生町	対象市町の主な公共施設
自治体間相互利用	飯能市及び日高市	図書館

※相互利用対象としている日高市の公共施設は、高麗郷民俗資料館、総合福祉センター「高麗の郷」、文化体育館「ひだかアリーナ」、市民プール、日高総合公園陸上トラック・野球場・テニスコート・サッカー場、図書館、高麗郷古民家「旧新井家住宅」であり、対象市町に在住等の場合は、日高市民としてみなした適用を行っている。

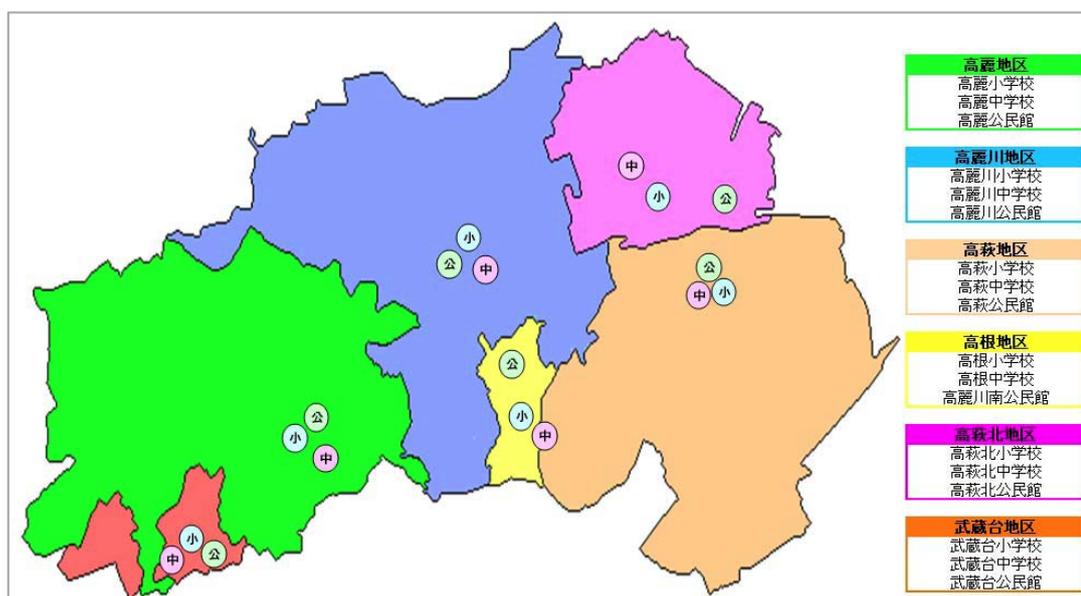
(6) 日高市の公共施設配置における特徴

日高市の公共施設の配置の特徴は、前述のまちの発展とともに公共施設を整備してきたことである。

具体的には、旧高麗村を中心とした「高麗地区」、旧高麗川村を中心とした「高麗川地区」、旧高萩村を中心とした「高萩地区」、昭和40年代の日高団地整備に伴う「高萩北地区」、昭和40年代のこまがわ団地及び東急こまがわ団地整備に伴う「高根地区」、昭和50年代の東急こま武蔵台団地整備に伴う「武蔵台地区」において、小学校、中学校、公民館がそれぞれ配置され、市内に6つの地区というコミュニティが成り立った。

現在に至るまでその配置は継続されており、6つの地区それぞれに小学校、中学校、公民館が配置されるという全国的には珍しい特徴を有している。

図表1-15 地域別の学校・公民館の配置図



図表1-16 主な公共施設をめぐる歴史

明治20年12月	高麗小学校開校
明治21年3月	高萩小学校開校
大正5年8月	高麗川小学校開校
昭和22年4月	高麗中学校開校
昭和22年4月	高麗川中学校開校
昭和22年4月	高萩中学校開校
昭和22年4月	高萩公民館開館
昭和30年10月	高麗川公民館開館
昭和35年4月	高麗公民館開館
昭和40年7月	日高団地入居開始【高萩北地区】
昭和41年1月	高萩団地入居開始【高萩地区】
昭和46年3月	町（市）営住宅（A棟）完成
昭和46年8月	公営水道給水開始
昭和47年3月	町（市）営住宅（B棟）完成
昭和47年10月	こま川団地入居開始【高根地区】
昭和48年1月	高根小学校開校
昭和48年3月	町（市）営住宅（C棟）完成
昭和49年4月	東急こまがわ団地入居開始【高根地区】
昭和51年3月	高岡浄水場完成
昭和51年4月	東急こま武蔵台入居開始【武蔵台地区】
昭和53年4月	高萩北小学校開校
昭和55年4月	高麗川南公民館開館
昭和55年4月	武蔵台小学校開校
昭和57年4月	高萩北公民館開館
昭和58年4月	高根中学校開校
昭和58年11月	武蔵台公民館開館
昭和59年4月	高萩北中学校開校
昭和60年4月	西武飯能・日高ニュータウン入居開始【武蔵台地区】
昭和62年2月	現庁舎で業務開始
昭和63年12月	公共下水道処理施設運転開始
平成元年4月	武蔵台中学校開校
平成元年8月	生涯学習センター開館
平成3年4月	総合公園全面オープン
平成9年4月	総合福祉センター「高麗の郷」開館
平成14年5月	文化体育館「ひだかアリーナ」開館

2. 人口推計

コーホート要因法を基礎として、平成 26 年度から平成 45 年度までの 20 年間にわたる人口推計を実施した。

(1) 3 階層別年齢人口推計

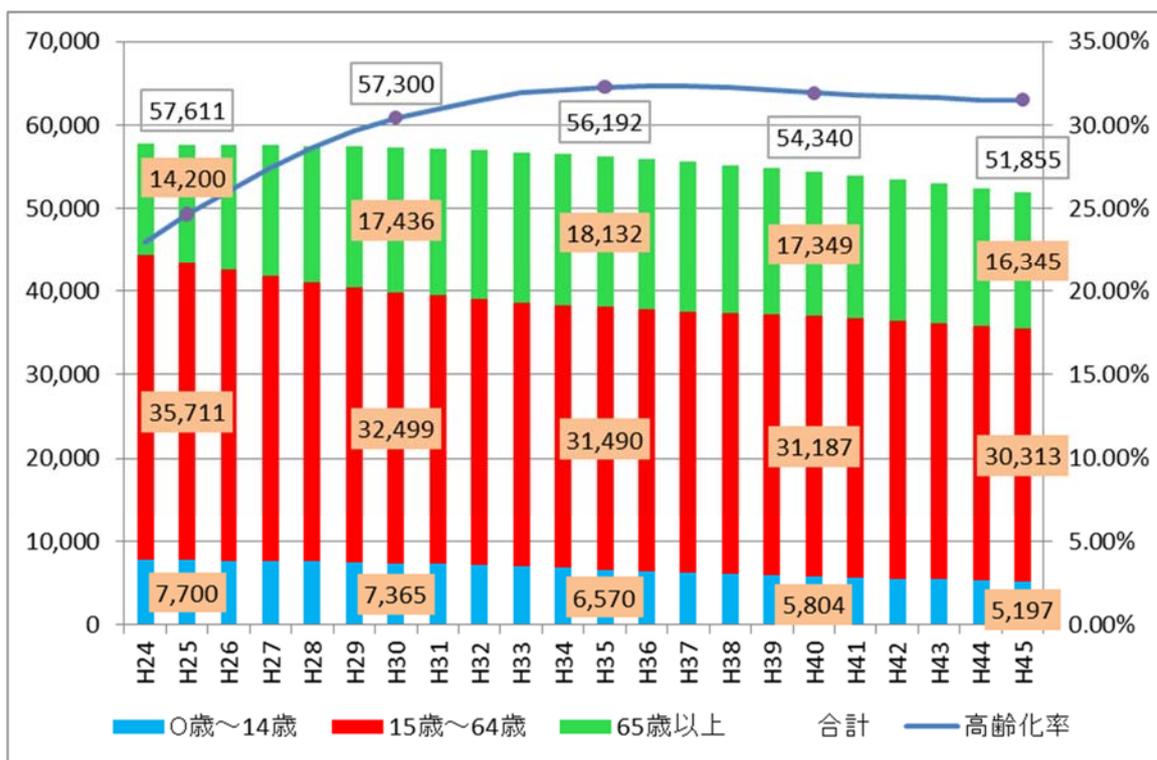
3 階層別年齢人口推計を行うに当たり、年少人口を 0～14 歳、生産年齢人口を 15～64 歳、高齢者人口を 65 歳以上と分類して推計を行った。

日高市は、土地区画整理事業の進捗と平成 15 年度に導入した都市計画法の規制緩和による市街化調整区域の住居系及び工業系土地利用の誘導制度により一時流入人口が増加したものの、少子高齢化の進展に伴い、今後緩やかな人口減少が見込まれる。

昭和 40 年から 50 年代にかけて首都圏のベッドタウンとして大規模住宅開発が行われ、ファミリー一層の流入が顕著であった。その世代が高齢化を迎え、今後 10 年間程度は高齢人口の増加とともに、高齢化率の急増が見込まれる。

なお、高齢化については平成 35 年頃には落ち着くことが見込まれているが、生産年齢人口や年少人口については減少傾向が続くものと見込まれる。

図表 1-17 日高市人口の推計(各年4月1日)



※平成 25 年4月1日人口は、地区別人口と連動するため、公表されている総人口数と整合しない。

図表 1-18 日高市人口の推移

人口（人）	平成25年	平成35年	平成45年
高齢者人口（人） （構成比率）	14,200 24.6%	18,132 32.3%	16,345 31.5%
生産年齢人口（人） （構成比率）	35,711 62.0%	⇒ 31,490 56.0%	⇒ 30,313 58.5%
年少人口（人） （構成比率）	7,700 13.4%	6,570 11.7%	5,197 10.0%

(2) 6地域別人口推計

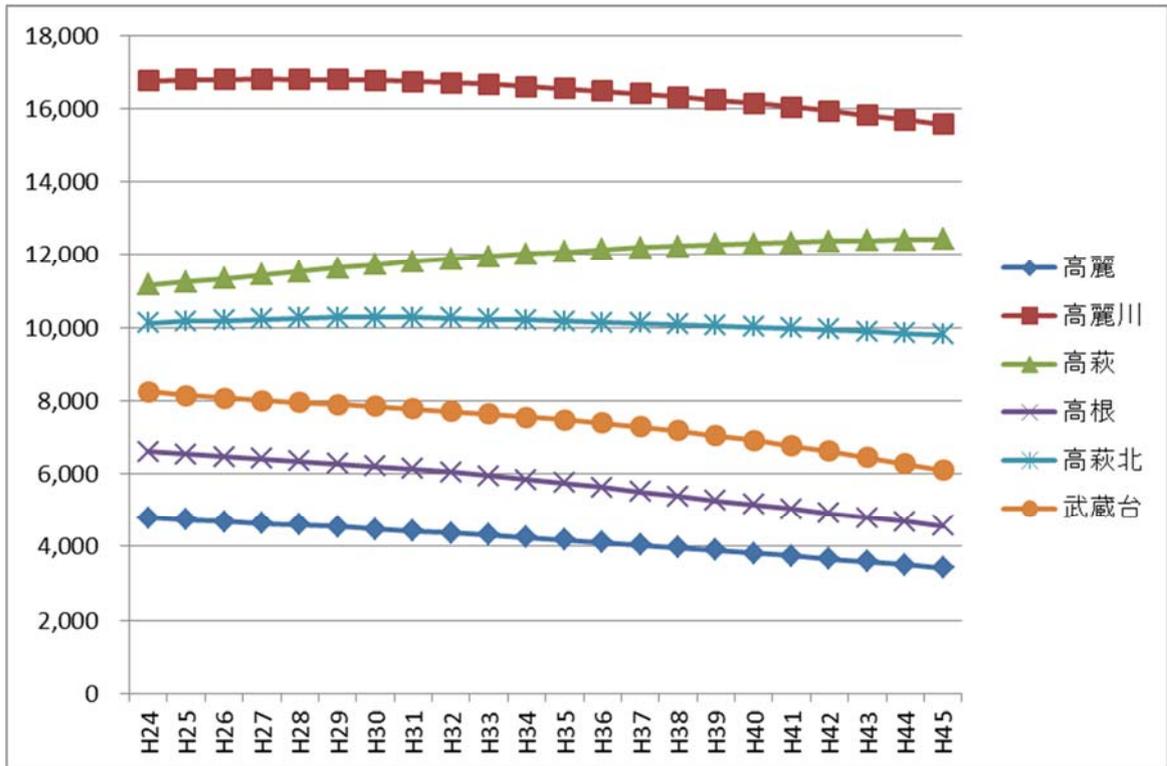
市内を高麗・高麗川・高萩・高根・高萩北・武蔵台の6地域に分類し、各地域別の人口推計を行った。地域別の人口については、今後20年間も順位は変わらず、高麗川・高萩・高萩北・武蔵台・高根・高麗の順となっている。

人口推計結果の分析を行ってみると、次のとおり地域によって人口の推移が異なるということが見込まれる。

具体的には、人口が増加すると見込まれる地域は高萩地区のみであり、その他の地区については緩やかに減少していくことが見込まれる。ただし、減少のスピードについては、地域によってさまざまであり、高萩北地区のように減少幅が小さな地域もある。

これは、それぞれの地域特性との関係が推測される結果であり、詳細な検証を各地域別に行っていく。

図表 1-19 各地域の人口推計結果



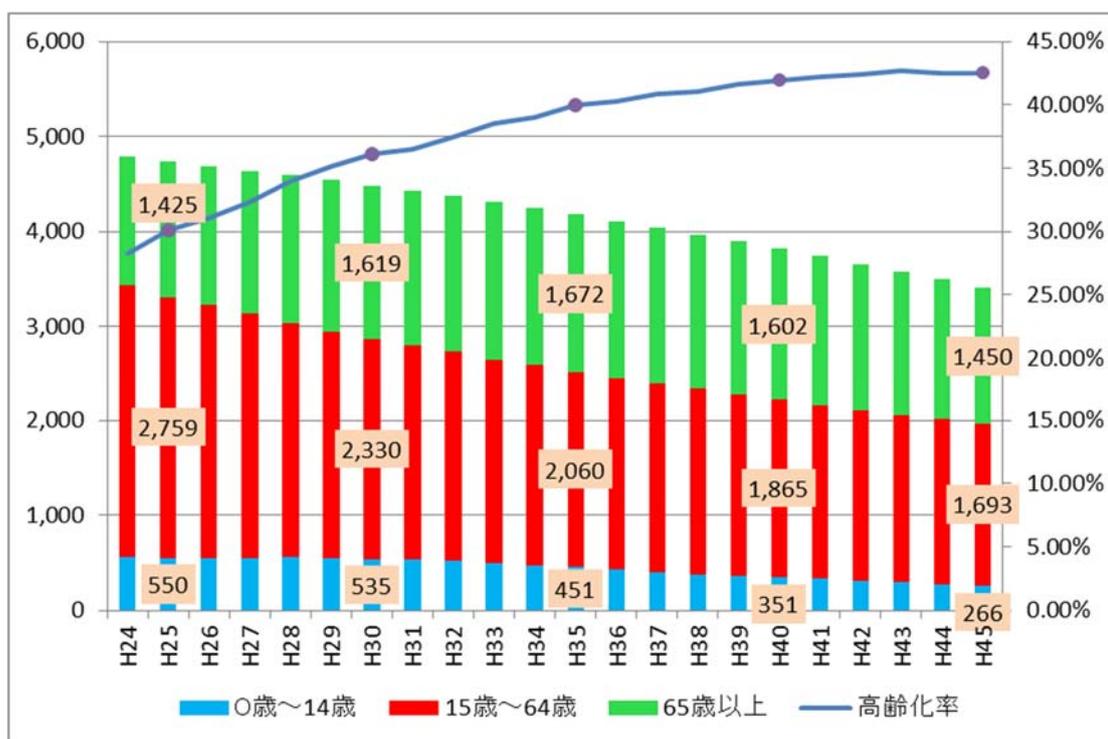
①高麗地区

高麗地区の人口は、旧高麗村時代から際立った流入人口がないため、平成45年にかけて減少していくことが見込まれる。市全域との比較からすると、人口全体の減少率は高く、特に年少人口や生産年齢人口の減少率が高くなるが見込まれる。高齢化率についても、他の地区に比して高い傾向が続くことが見込まれる。

また、年齢別の推計の特徴は次のとおりである。

- 年少人口については、平成25年から平成45年にかけて大きく減少(▲52%程度)することが見込まれる。
- 生産年齢人口については、平成25年から平成45年にかけて大きく減少(▲39%程度)することが見込まれる。
- 高齢者人口については、平成25年から平成35年にかけて増加(+18%程度)した後、平成45年の1,450人まで減少が見込まれる。

図表 1-20 高麗地区の人口推計



図表1-21 高麗地区の人口の推移

人口(人)	平成25年	⇒	平成35年	⇒	平成45年
高齢者人口(人) (構成比率)	1,425 30.1%		1,672 40.0%		1,450 42.5%
生産年齢人口(人) (構成比率)	2,759 58.3%		2,060 49.2%		1,693 49.7%
年少人口(人) (構成比率)	550 11.6%		451 10.8%		266 7.8%

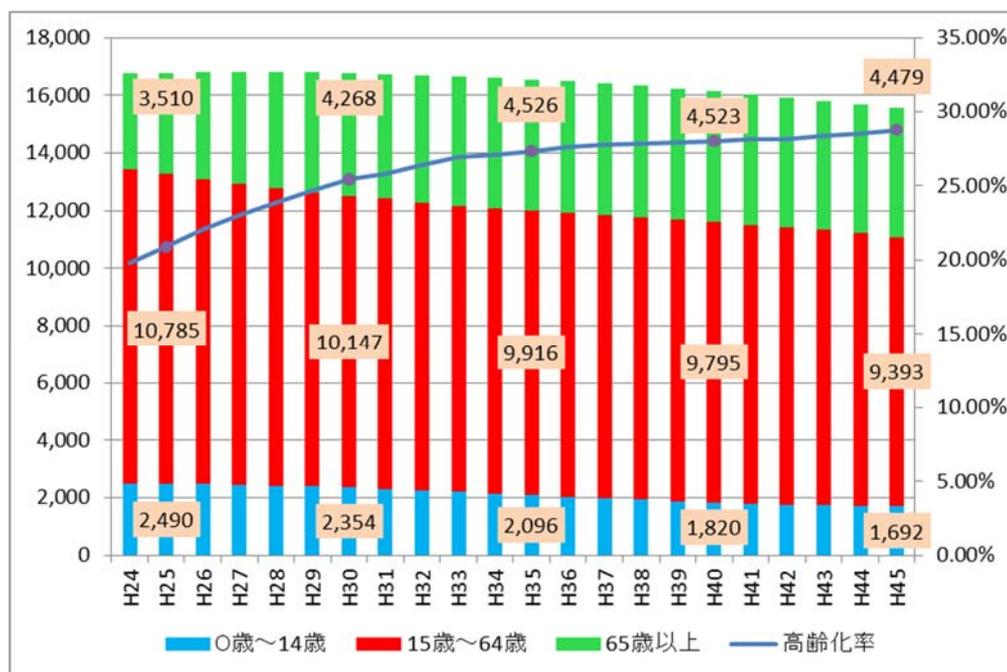
②高麗川地区

高麗川地区は、市街化区域が多く、高麗川駅周辺の整備がなされることから、人口減少のスピードは緩やかであることが見込まれる。今後10年間程度は高齢化が急速に進行するが、その後はなだらかになることが見込まれる。市全域と比較すると、人口の高齢者割合は市全体より若干低いですが、平成35年以降の市全体での高齢者割合が緩やかな下降線をたどるのに対して、高麗川地区は増加が維持される。

また、年齢別の推計の特徴は次のとおりである。

- 年少人口については、減少傾向が続き、人口に占める割合も小さくなっていくことが見込まれる。
- 生産年齢人口については、今後10年間程度で減少(▲8%程度)するが、その後は緩やかな減少に転じることが見込まれる。
- 高齢者人口については、今後10年間で大幅に増加(+29%程度)することが見込まれる。その後の高齢者人口は急激に変化しないが、高齢者の人口構成比率は徐々に高まり続けることが見込まれる。

図表 1-22 高麗川地区の人口推計



図表 1-23 高麗川地区の人口の推移

人口(人)	平成25年	⇒	平成35年	⇒	平成45年
高齢者人口(人) (構成比率)	3,510 20.9%		4,526 27.4%		4,479 28.8%
生産年齢人口(人) (構成比率)	10,785 64.3%		9,916 60.0%		9,393 60.4%
年少人口(人) (構成比率)	2,490 14.8%		2,096 12.7%		1,692 10.9%

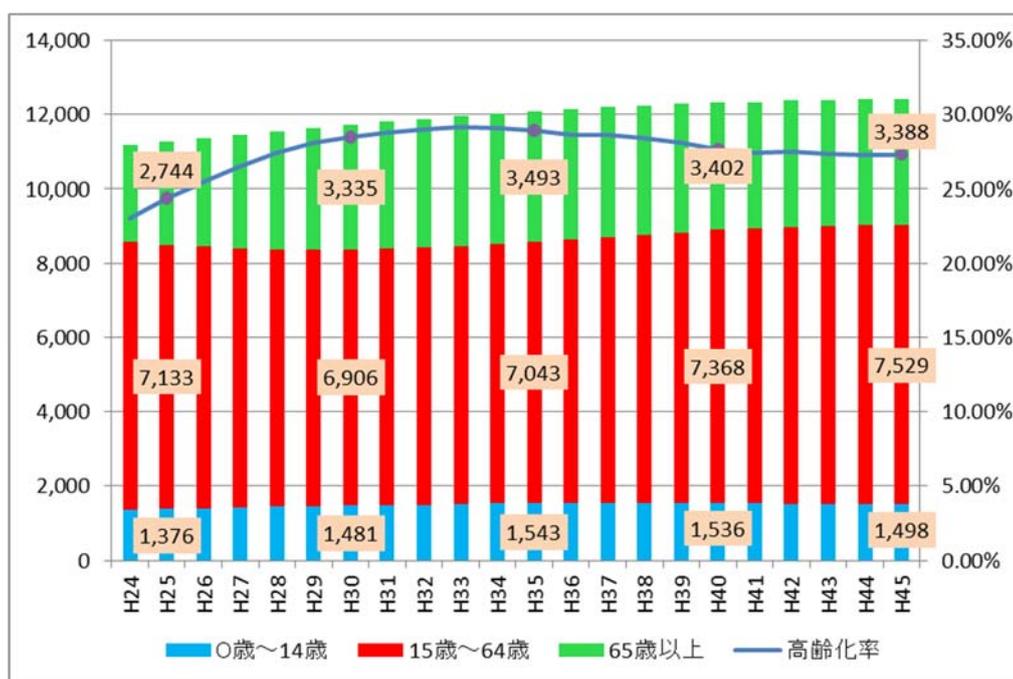
③高萩地区

高萩地区は、武蔵高萩駅周辺が市街化区域であり、駅北側で区画整理が進んでいることから、今後も人口増加が見込まれる。今後10年程度は高齢化が急速に進行するが、その後は減少に転じることが見込まれる。市全域と比較すると、人口の高齢者割合は市全体より低いことが見込まれる。また、今後20年間で市全体として人口減少が見込まれる中、高萩地区は年少人口・生産年齢人口ともに増加が見込まれており、高齢化率も高くない数値で推移していく。

また、年齢別の推計の特徴は次のとおりである。

- 年少人口については、今後10年間で人口・割合ともに増加するが、その後は落ち着いた推移となるが見込まれる。
- 生産年齢人口については、平成30年にかけて若干減少することが見込まれる一方、平成45年に向けて徐々に増加し、現在の生産年齢人口より増加することが見込まれる。
- 高齢者人口については、今後10年間で増加が見込まれる。その後、人口増加は落ち着き、高齢化率も急激に変化しないことが見込まれる。

図表1-24 高萩地区の人口推計



図表1-25 高萩地区の人口の推移

人口(人)	平成25年	⇒	平成35年	⇒	平成45年
高齢者人口(人) (構成比率)	2,744 24.4%		3,493 28.9%		3,388 27.3%
生産年齢人口(人) (構成比率)	7,133 63.4%		7,043 58.3%		7,529 60.6%
年少人口(人) (構成比率)	1,376 12.2%		1,543 12.8%		1,498 12.1%

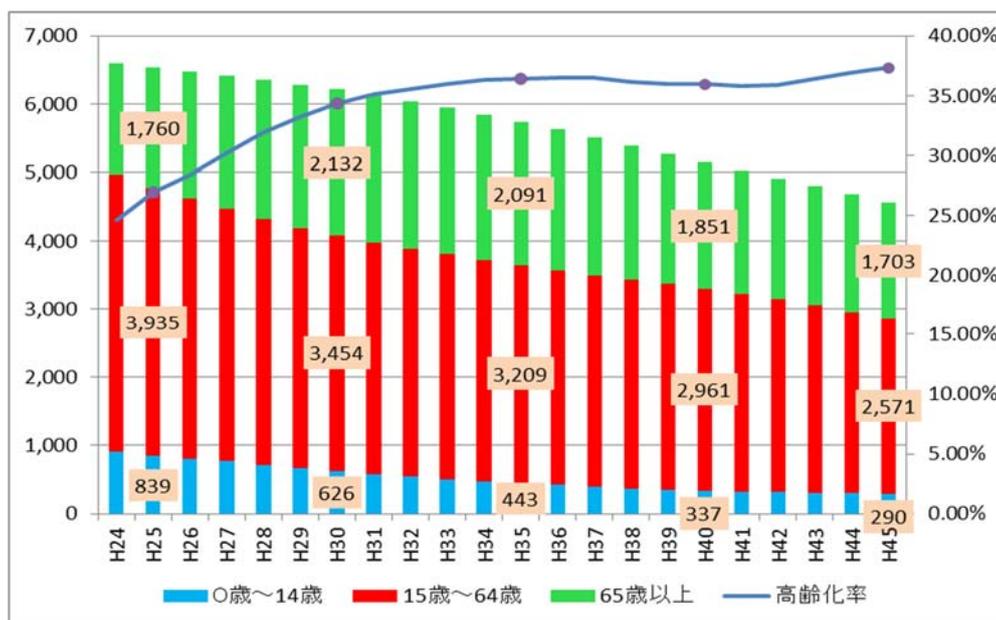
④高根地区

高根地区は、東急こまがわ団地の在住者の高齢化などにより、全体的に人口減少・高齢化が進行することが見込まれる。特に、14歳未満人口の減少が著しく進み、生産年齢人口の減少も見込まれる。また、本推計では考慮の対象外としたが、こまがわ団地の老朽化も進んでおり、今後の人口やその構成に影響を及ぼすおそれもある。市全域と比較すると、特に年少人口と生産年齢人口の減少が目立つ結果となっている。高齢化率についても、平成35年以降かなり高いものとなっており、少子化と高齢化の進行が顕著である。

また、年齢別の推計の特徴は次のとおりである。

- 年少人口については、減少が著しく20年後にはおよそ3分の1まで減少することが見込まれる。
- 生産年齢人口については、減少が著しく進むことが見込まれる。今後20年間は、毎年700人程度減少していくことが見込まれる。
- 高齢者人口については、平成35年まで増加が続くが、その後減少に転じ、平成25年と同等の人口となると見込まれる。高齢者以外の人口減少が著しいため、20年後の高齢化率は非常に高いものとなるが見込まれる。

図表1-26 高根地区の人口推計



図表1-27 高根地区の人口の推移

人口(人)	平成25年	⇒	平成35年	⇒	平成45年
高齢者人口(人) (構成比率)	1,760 26.9%		2,091 36.4%		1,703 37.3%
生産年齢人口(人) (構成比率)	3,935 60.2%		3,209 55.9%		2,571 56.3%
年少人口(人) (構成比率)	839 12.8%		443 7.7%		290 6.3%

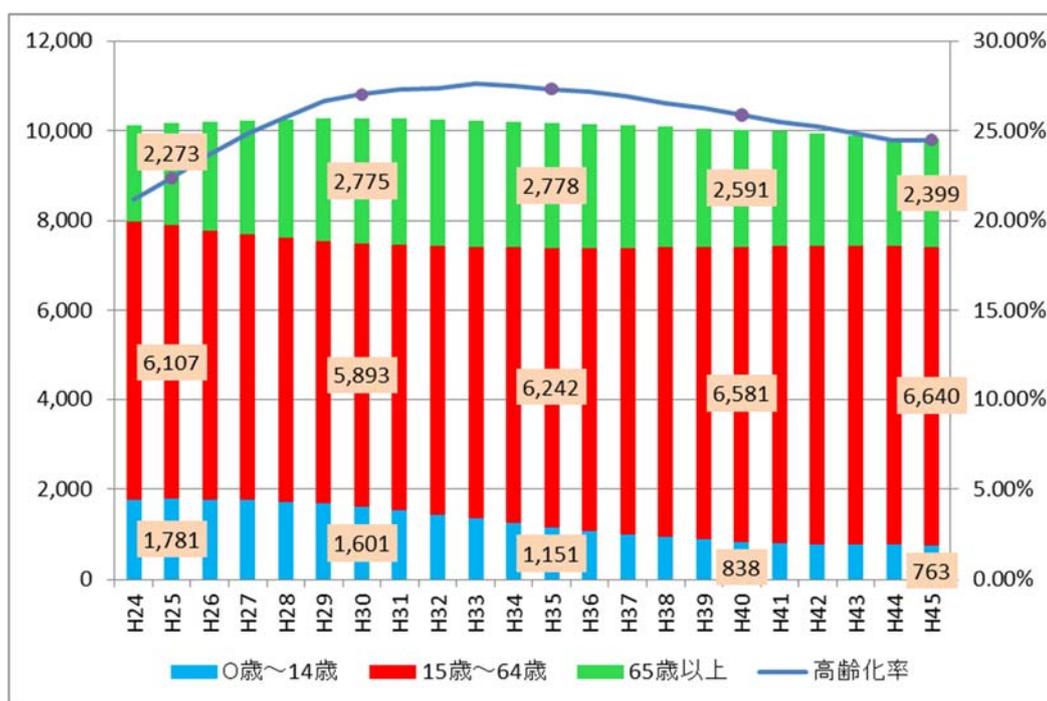
⑤高萩北地区

高萩北地区は、人口横ばいで推移することが見込まれる。土地の規制緩和時代に流入してきた若年ファミリー層が人口を支えており、生産年齢人口は若干増加しながら推移していくことが見込まれる。全体として、今後10年間程度は高齢化が急速に進行するが、その後は再び高齢化率は低下することが見込まれる。市全域と比較すると、生産年齢人口の増加傾向と割合の高さ、高齢化率の低さが特徴であるとともに、年少人口の減少率が高い傾向で推移することが見込まれる。

また、年齢別の推計の特徴は次のとおりである。

- 年少人口については、平成25年から平成45年にかけて大きく減少(▲57%程度)することが見込まれる。
- 生産年齢人口については、平成25年から平成45年にかけて増加(+9%程度)することが見込まれる。
- 高齢者人口については、平成35年頃まで増加(+22%程度)した後、減少に転じることが見込まれる。高齢化率については、生産年齢人口が増加する影響で、平成33年頃以降、減少が見込まれる。

図表1-28 高萩北地区の人口推計



図表1-29 高萩北地区の人口の推移

人口 (人)	平成25年	⇒	平成35年	⇒	平成45年
高齢者人口 (人) (構成比率)	2,273 22.4%		2,778 27.3%		2,399 24.5%
生産年齢人口 (人) (構成比率)	6,107 60.1%		6,242 61.4%		6,640 67.7%
年少人口 (人) (構成比率)	1,781 17.5%		1,151 11.3%		763 7.8%

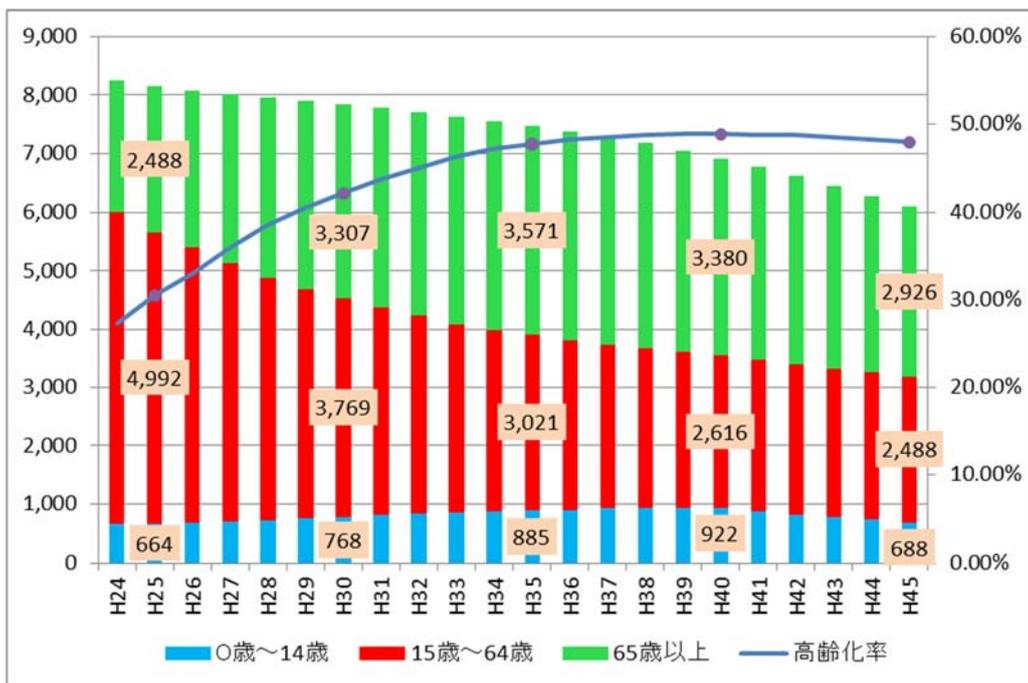
⑥武蔵台地区

武蔵台地区は、全体的に人口減少・高齢化が進行することが見込まれる。特に生産年齢人口の急速な減少が見込まれているが、この要因としては、定住者の第2世代の市外流出等が考えられる。生産年齢人口の急減と高齢者人口の高止まりが高齢化の進行を引き起こしている。市全域と比較すると、生産年齢人口の急減と高齢化の進行が顕著である。平成45年の高齢者人口が市全域では約30%であるのに対して、武蔵台地区は48%と、地区人口の約半数が高齢者となるおそれがある。

また、年齢別の推計の特徴は次のとおりである。

- 年少人口については、今後ある程度の増加が見込まれるが、これは児童数の増加であるため、当該地区への定住が条件となっている。よって、生産年齢人口の増減によって変動する可能性がある。年少人口は緩やかに増加した後、平成40年以降減少に転じると想定される。
- 生産年齢人口については、今後急激に減少していく見込みである。平成45年には、人口は現在のおよそ半分程度となることを見込まれている。
- 高齢者人口については、今後10年で急激に増加するとともに、高齢化率も40%を超える見込みである。

図表1-30 武蔵台地区の人口推計



図表1-31 武蔵台地区の人口の推移

人口(人)	平成25年	⇒	平成35年	⇒	平成45年
高齢者人口(人) (構成比率)	2,488 30.6%		3,571 47.8%		2,926 48.0%
生産年齢人口(人) (構成比率)	4,992 61.3%		3,021 40.4%		2,488 40.8%
年少人口(人) (構成比率)	664 8.2%		885 11.8%		688 11.3%

